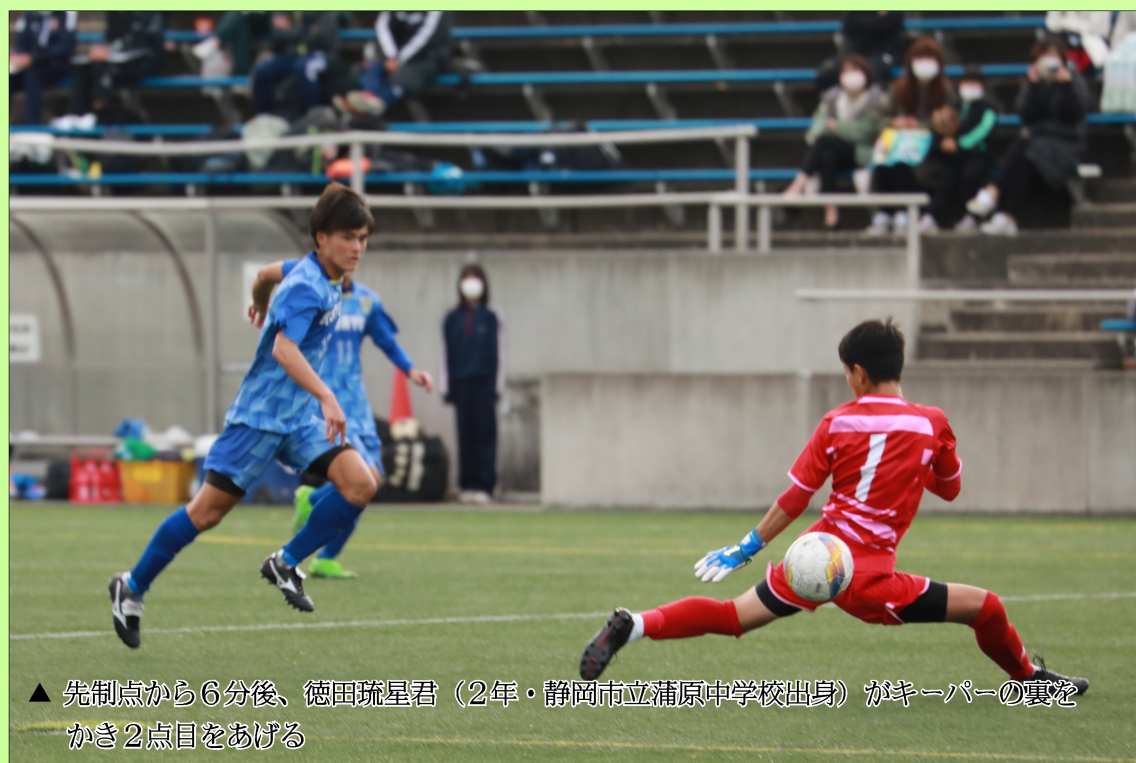


ベスト4 進出



第101回全国高校サッカー選手権県大会2次予選

▲後半、清富鯉生君(2年・世田谷区立船橋希望中学校出身)のフリーキックに佐々木聖空君・14番(1年・千葉市立千城台西中学校出身)がヘッドで合わせ先制



▲先制点から6分後、徳田琉星君(2年・静岡市立蒲原中学校出身)がキーパーの裏をかき2点目をあげる

10月22日(土)、第101回全国高校サッカー選手権青森県大会第3回戦が十和田市高森山総合運動公園球技場で行われた。本校は、八戸西高校を2対0で破り、初の4強入りを果たした。前半は、押し込まれる場面もあったが、守備陣が良く守り0対0。後半は、攻守のバランスがとれセットプレーから1得点、流れの中から1得点。この日は、点を取ってからも落ち着いたプレーで最後まで集中して戦い抜いた。1年生たちは、「試合が楽しい、試合に出ていなくても皆と同じように緊張し、同じようにワクワクする、2次予選3試合が本当に楽しかった」と充実した時を過ごした様子。2年生たちは、自分たちらしいサッカーにこだわり、後輩をリードしてくれた。試合終了後、笑顔で喜び合った部員たちの目は、すでに次の試合へと向いていた。次戦は、日本一の青森山田高校。3年生は、青森山田高校との対戦を経験している唯一の学年。チーム一丸となって、どこまで向陵らしきを出せるか楽しみである。試合は、11月3日(木)、カクヒログループアスレチックスタジアムで10時半キックオフ。

【試合結果】2次予選3回戦

向陵 2 (0-0) 0 八西

2年 徳田 琉星(静岡市立蒲原中学校出身)



サッカー部顧問(監督) 山本 真也

《2次予選を振り返って》
この2次予選はチームの一体感を強く意識しました。試合に出るメンバーだけ頑張るのではなく、ベンチのメンバーがいつ出ても活躍できるように最善の準備を行うこと、スタンドにいるメンバーが試合のメンバーが少しでも試合に集中できるようにサポートしてあげること、自分は関係ないとか試合に出ないから適当でいいはありえないということ、そうして全員の気持ちの一つになれば目標であるベスト4も夢ではないと感じていました。2回戦の三本木農業戦はPKの末、勝利をものにしましたが、まさに一体感がものをいうゲームでした。劇的な勝利によってさらにチームの一体感や絆が深まったと感じました。これが大会限定のものではなく、チームに根付いて、向陵高校サッカー部の伝統になってほしいと思っています。また、4人しかいない3年生ですが、目標であるベスト4を達成できたことを称えたいと思います。努力が報われた貴重な経験です。これからの人生の自信にしてほしいと思います。

《青森山田戦に向けて》
青森山田は昨年高校年代の大会を3冠しているチームです。強いことはもうわかりきっていることなので、相手がどうかではなく、今年のチームの集大成として自分たちが積み重ねてきたものを最大限発揮し、プレーしている選手たち、見ている人たちが楽しいと思えるような試合をしたいと思っています。

部長 3年 梅内 拓真(名川中学校出身)

これまでの試合、すべて無失点でこれたことが良かったです。危険な場面もありましたが、守備が集中して守り切ることができました。そして目標であるベスト4を達成することができました。選手権が3年生ラストの大会となります。3年間やってきたことをすべて出し切って終われるようにしたいです。向陵らしいサッカーをしてきたいと思っています。応援よろしくお願ひします。

【試合結果】2次予選1回戦 10月15日(土)

向陵 4 (20) 0 弘前中央

〈得点〉2年 清富 鯉生(世田谷区立船橋希望中学校出身)

2年 有川 輝優(小田原市立国府津中学校出身)

2年 徳田 琉星(静岡市立蒲原中学校出身)

3年 大下 徳美(名川中学校出身)

〈延長〉

向陵 0 (00) 0 三本木・恵拓

〈PK〉 9-8

① 2年 徳田 琉星(静岡市立蒲原中学校出身)

② 2年 細越 朝陽(第一中学校出身)

③ 2年 清富 鯉生(世田谷区立船橋希望中学校出身)

④ 2年 山家 昌悟(平塚市立土沢中学校出身)

⑤ 3年 梅内 拓真(名川中学校出身)

⑥ 3年 大下 徳美(名川中学校出身)

⑦ 2年 守永 賢心(茅ヶ崎市立梅田中学校出身)

⑧ 2年 宮古 理人(湊中学校出身)

⑨ 1年 出川 憐(白銀南中学校出身)



副部長 3年 福島 空鳳(下長中学校出身)

1回戦目の弘前中央戦では、初戦というのと何度か負けた相手であるということもあり、最初は自分たちのサッカーをすることができませんでした。しかし、1点を取ってからの皆の緊張がほぐれ勝つことができました。2回戦目は、強豪校が相手でした。守備陣の集中力が凄く、結果PK戦で勝つことができました。3回戦目も最初はなかなかパスが繋がらなかったけれど、すぐに修正し勝つことができました。次の青森山田戦は、2年前全く歯が立たなかった相手ですが、笛が鳴るまで全力で戦い続け、観客を魅了するサッカーをしたいです。

【試合結果】2次予選2回戦 10月16日(日)

向陵 0 (00) 0 三本木・恵拓



PK戦。ピッチ上で先輩たちのゴールを見ているとき、ずっと緊張していたと話すのは9番目のキッカー、出川 憐君。自分の番に「落ち着いていけば大丈夫」「思いきり蹴って」と先輩に声を掛けてもらい、その言葉通りに蹴ることができたと言っている。また、この経験を次に繋げたいと笑顔を見せた。

15日(土)、2次予選初戦。試合の写真撮っている後方で、サッカー好きの方が話しているのが聞こえてきた。「この試合は、向陵と弘前中央。弘前はなかなか強いよ。向陵は、パスやドリブルで繋ぐサッカー。面白いサッカーするチームだよ」と。両校の応援をしに来たのではなく、純粋にサッカーファンのようだった。大会パンフレットを片手に互いにチーム分析をしていたのである。試合後は、「向陵らしい面白いサッカーだった。後半は特に楽しませてもらった」と感想を述べていた。向陵サッカーが少しずつ浸透しているのだと嬉しくなった。

16日(日)は、部員の家族と話すことができた。「下宿しているから毎日顔を合わせることはないし話さない。でも、こうして試合を見ると頑張っているのが伝わってくる。私たちがいつも見守るだけ。毎日話せなくても、表情から充実した生活を送っているのだと感じられる」と目を細めた。

次の青森山田戦。仲間や家族はもちろん、応援してくれている方々に感謝しながら一気負わず、向陵サッカーでたくさんの人を魅了してほしい。そして、サッカーを楽しんでほしい。

3年 大下 徳美(名川中学校出身)

2次予選は、2回戦が一番の山でした。一進一退の攻防戦でした。この試合は、チーム一丸となって掴み取った勝利だと思います。次は、2年越しに掴んだ青森山田への挑戦権なので、サッカーを楽しみつつ、自分たちが今までやってきたサッカーで挑みたいと思います。

3年 久保市 稜(江陽中学校出身)

3回戦の八西戦は、攻めて2対0で勝つことができました。私はスタンドからピッチに立つ仲間と同じ気持ちで試合に臨みました。次戦は、青森山田と戦います。青森山田と戦うのは、1年生の時以来2回目になります。前回は自分たちらしいサッカーができなかったため、今年は少しでもいい試合がしたいです。部員全員で向陵サッカーをしてきます。応援よろしくお願いたします。

